

平成26年度「公募型共同研究事業」の採択を決定しました

(公財)若狭湾エネルギー研究センターでは、福井県が推進する「エネルギー研究開発拠点化計画」に掲げる「研究開発機能の強化」の一環として、県内をはじめ、関西・中京圏の大学・研究機関等との共同研究を推進しています。

平成26年度は、4月10日～5月23日まで、事業化・実用化を目指す企業を研究体制に加えた「産学連携研究」と、研究者が共同で行う「基礎研究」に関する公募を行いました。

このたび、13件(産学連携研究3件、基礎研究10件)の提案があり、審査の結果、下記のとおり、6件(産学連携研究2件、基礎研究4件)の採択を決定しましたのでお知らせします。

記

【産学連携研究枠(2件)】

件名	研究概要	[提] 提案機関 [企] 参加企業 [協] 研究協力機関
イオンビーム励起反応場を利用した鉄ロジウム合金の磁気改質技術開発と各種デバイス創製への応用	イオンビームを照射し、マイクロ・ナノスケールで合金の磁気特性を改質する技術を確立することにより、磁気センサーや磁気メモリーの高感度化、高密度化による新たなデバイスへの応用を目指す。	[提] 大阪府立大学 [企] 住重試験検査株式会社 [協] 独立行政法人日本原子力研究開発機構
機能性ナノファイバー電極材の創製とエネルギー変換素子・センサーへの応用	静電紡糸法や無電解めっき技術を活用して、耐熱性、強靱性の高いナノファイバー電極材を創製するとともに、これを用いた高分子アクチュエーターの可動域の拡大や太陽電池およびセンサーのエネルギー変換効率(感度)の向上を図る。	[提] 福井大学 [企] セーレン株式会社

(掲載は提案機関五十音順)

【基礎研究枠(4件)】

件名	研究概要	[提] 提案機関
陽子線・ヘリウム線による脳壊死モデル作成技術の確立	マウス等に陽子線及びヘリウム線を照射し、放射線量と脳壊死との関係を明らかにするとともに、脳壊死モデルの作成技術を確立することにより、新たな脳壊死治療法の開発を目指す。	[提] 京都大学
低酸素環境下のがん細胞に対する陽子線治療メカニズムの解明	分子イメージング技術を活用し、放射線治療や化学療法に抵抗性を示す低酸素環境下のがん細胞に対する陽子線治療のメカニズムを解明することにより、陽子線がん治療効果予測法の確立を目指す。	[提] 福井大学
トマト栽培ハウス温調用のヒートポンプ・BACH融合システムの開発	気泡駆動型循環式ヒートパイプ(BACH)を利用して地中熱で温水を生成し、トマト土壤に供給するシステムを実証することにより、栽培ハウスにおける冬の暖房の省エネ化を図る。	[提] 福井大学
陽子線がん治療における低線量被ばくした正常組織での組織幹細胞動態の解明	陽子線の照射により、低線量被ばくした担がんマウスの小腸および骨髄の正常組織に対する影響を評価し、陽子線がん治療時の安全性、信頼性の向上を図る。	[提] 福井大学

(掲載は提案機関五十音順)